

代数学 I (2018 年度後期) 演習問題 2 (解答例)

注意 以下はあくまでひとつの解答例である。誤植も含め、解答に誤りが存在するかもしれないので、鵜呑みにせず各自で検証すること。

問題 1.

1. 行列 $A \in GL(n, \mathbb{R})$ による線形変換で, $u, v \in \mathbb{R}^n$ の標準内積 $(u, v) = {}^t u v$ は,

$$(Au, Av) = {}^t(Au)(Av) = {}^t u ({}^t A A)v$$

と変換される。内積が保たれる, すなわち $(Au, Av) = (u, v)$ であるならば,

$${}^t u ({}^t A A)v = {}^t u v \quad \text{すなわち} \quad {}^t u ({}^t A A - I)v = 0$$

である。任意の $u, v \in \mathbb{R}^n$ に対し, この等式が成り立つのだから, ${}^t A A - I = O$ すなわち ${}^t A A = I$ である。従って, $A \in O(n)$ である。逆に, $A \in O(n)$ ならば, ${}^t A A = I$ であるから, $(Au, Av) = (u, v)$ より, 内積が保たれる。

2. A は直交行列だから, ${}^t A A = I$ である。両辺の行列式を考えれば $(\det A)^2 = 1$ を得るから, $\det A = \pm 1$ である。

問題 2.

1. (D_6 の乗積表より) $\sigma_1 \theta = \theta^{-1} \sigma_1 = \sigma_4$ であることがわかる。
2. σ_i ($i = 2, 3, \dots, 6$) が, θ と σ_1 とで表されることを示せば十分である。

問題 3. x の位数が n であるから, $x^n = e$ (e は単位元) および $1 \leq k < n$ なる自然数 k に対し $x^k \neq e$ が成り立つ。よって, $(gxg^{-1})^n = gx^n g^{-1} = gg^{-1} = e$ および $(gxg^{-1})^k = gx^k g^{-1} \neq e$ であり, gxg^{-1} の位数は n であることがわかる。

問題 4. $\langle a^d \rangle$ が $G = \langle a \rangle$ の部分群であることは明らか。仮定より, $n = md$ ($1 < m < n$) なる自然数 m が存在する。よって, $\langle a^d \rangle$ の位数は, 1 でも n でもないので, $\langle a^d \rangle$ は G の真部分群である。

問題 5.

1. G は単位群でないので、単位元とは異なる元 $x \in G$ が存在する。このとき、 $\langle x \rangle$ は G の部分群である。 G は真部分群を持たないから $\langle x \rangle = G$ である。これで、 G が巡回群であることがいえた。
2. G の位数が無限なら $\langle x^2 \rangle$ は G の真部分群である。 G は真部分群を持たないから、 G の位数は有限でなければならない。
3. また、 G の位数が素数でなければ、問題 4 より G は真部分群を持つから、位数は素数でなければならない。

問題 6.

1. $kn' = k'n$ より $(x^k)^{n'} = (x^n)^{k'} = e^{k'} = e$
2. 巡回群の性質から、 $kl \equiv 0 \pmod{n}$ である。よって、 $k'\ell \equiv 0 \pmod{n'}$ である。 k' と n' とは互いに素であるから、 $\ell \equiv 0 \pmod{n'}$ を得る。
3. 1 より、 x^k の位数は n' の約数である。2 より、 $(x^k)^\ell = e$ かつ $0 < \ell < n'$ を満たす整数 ℓ は存在しない。従って、 x^k の位数は n' である。